

## 「平成 28 年 国民生活基礎調査」結果のポイント

厚生労働省が平成 29 年 6 月 27 日発表した、「平成 28 年国民生活基礎調査」結果から、「世帯の状況」と「介護の状況」に絞って、そのポイントを紹介します。「世帯の状況」では、高齢者世帯は 1327 万 1 千世帯で、全世帯の 26.6%と世帯数、割合とも過去最高になっています。「介護の状況」は同居の主な介護者と要介護者等がいずれも 65 歳以上の割合は、54.7%で上昇傾向となっています。

### 1. 世帯の状況

#### (1) 世帯構造及び世帯類型の状況

平成 28 年 6 月 2 日現在における全国の世帯総数は 4994 万 5 千世帯となっている。

(なお、熊本地震の影響により、熊本県は調査を実施していないため、今回の結果は熊本県分を除いた集計：以下同様)

世帯構造をみると、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が 1474 万 4 千世帯（全世帯の 29.5%）で最も多く、次いで「単独世帯」が 1343 万 4 千世帯（同 26.9%）、「夫婦のみの世帯」が 1185 万世帯（同 23.7%）となっている。

世帯類型をみると、「高齢者世帯」\* は 1327 万 1 千世帯（全世帯の 26.6%）で、年次推移をみると、世帯数・割合とも過去最高になっている。

(\*「高齢者世帯」とは、65 歳以上の者のみで構成するか、又はこれに 18 歳未満の未婚の者が加わった世帯)

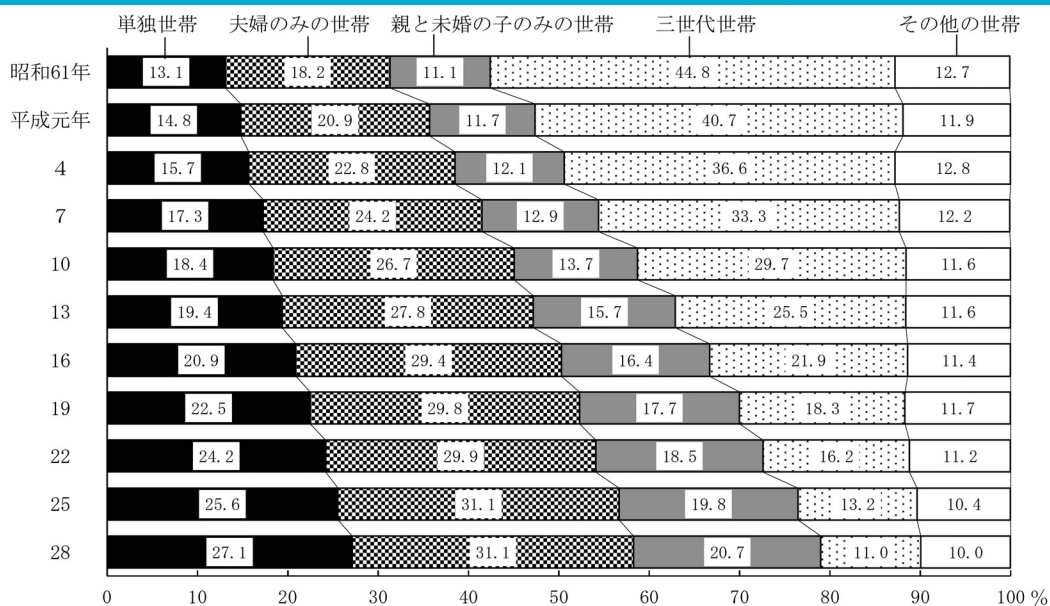
奈良県の世帯総数は、51 万 3 千世帯で、「高齢者世帯」は 14 万 6 千世帯（全世帯の 28.4%）となり、全国よりも高い割合となっている。

#### (2) 65 歳以上の者のいる世帯の状況

65 歳以上の者のいる世帯は 2416 万 5 千世帯（全世帯の 48.4%）となっている。

世帯構造をみると「夫婦のみの世帯」が 752 万 6 千世帯（65 歳以上の者のいる世帯の 31.1%）で最も多く、次いで「単独世帯」が 655 万 9 千世帯（同 27.1%）、「親と未婚の子のみの世帯」が 500 万 7 千世帯（同 20.7%）となっている。（図 1）

図 1：65 歳以上の者のいる世帯の世帯構造の年次推移



注：1) 平成 7 年の数値は、兵庫県を除いたものである。

2) 平成 28 年の数値は、熊本県を除いたものである。

3) 「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」及び「ひとり親と未婚の子のみの世帯」をいう。

## 2. 介護の状況

### (1) 要介護者等のいる世帯の状況

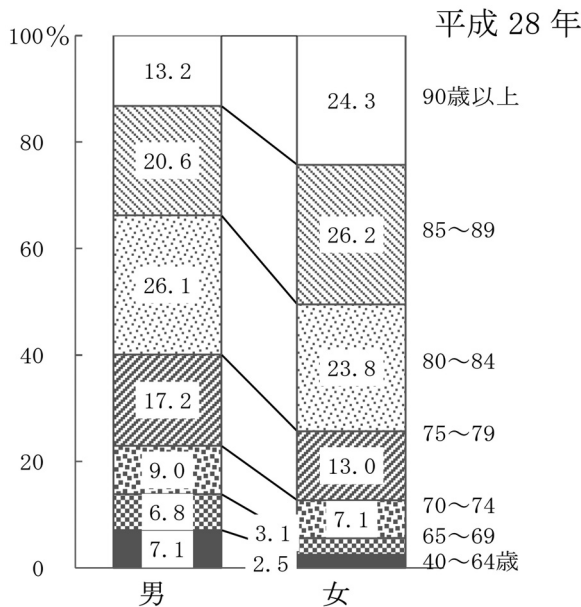
介護保険法の要支援または要介護と認定された者のうち、在宅の者（以下「要介護者等」という）のいる世帯の世帯構造をみると、「核家族世帯」が37.9%で最も多く、次いで「単独世帯」が28.9%、「その他世帯」が18.3%となっている。

平成13年と比較すると、「核家族世帯」は8.6ポイント上昇し（13年：29.3%→28年：37.9%）、「単独世帯」も13.2ポイント上昇した（13年：15.7%→28年：28.9%）。一方「三世帯世帯」は17.6ポイント低下した（13年：32.5%→28年：14.9%）。

### (2) 要介護者等の状況

要介護者等の年齢を年次推移でみると、年齢が高い階級が占める割合が上昇している。平成28年の要介護者等の年齢を性別にみると、男は「80～84歳」の26.1%、女は「85～89歳」の26.2%が最も多くなっている。（図2）

図2：性別にみた要介護者等の年齢階級別割合構成



注：熊本県を除いたものである。

### (3) 主な介護者の状況

主な介護者をみると、要介護者等と「同居」が58.7%で最も多く、次いで「事業者」が13.0%となっている。

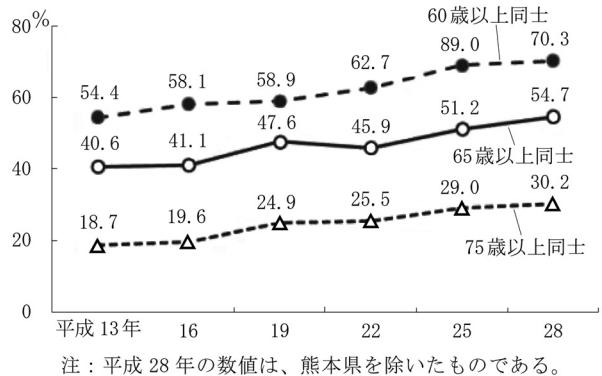
「同居」の主な介護者の要介護者等との続柄をみると、「配偶者」が25.2%で最も多く、次いで「子」が21.8%、「子の配偶者」が9.7%となっている。

また、「同居」の主な介護者を性別にみると、男34.0%、女66.0%で女が多く、これを年齢階級別にみると、男女とも「60～69歳」が28.5%、33.1%と最も多くなっている。

同居の主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が48.4%、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が32.9%で最も多くなっている。

年次推移をみると、60歳以上同士、65歳以上同士、75歳以上同士の組合せにおいて、いずれも上昇傾向となっている。（図3）

図3：要介護者等と同居の主な介護者の年齢組合せ別の割合の年次推移



介護が必要な高齢者を同居の65歳以上の高齢者が介護する「老老介護」の割合は増加しています。

介護者は、日常生活での悩みやストレスを抱える割合が多く、その原因の7割が「家族の病気や介護」と答えています。介護の負担を少しでも軽くするサービスや支援が必要と思われます。

（奥 桂子）